

序 文

サハリン大陸棚の石油開発が始まったことによって、万一原油が流出したらどう対応するかという問題が、オホーツク海沿岸の地域住民にとって深刻なテーマになってきている。

我々研究チームは、文部省科学研究費基盤研究（A）「サハリン大陸棚石油・天然ガス開発にともなう『開発と環境』に関する学際的研究」（課題番号10309002-00）によって、流出油の防除・対応をどう行うべきか、研究すると共にオホーツク海沿岸の主要都市で市民講座を開設して、問題意識の喚起に努めてきた。

幸い、我々のこのような姿勢が地域社会に受け入れられて、地域社会の重要な関心事になってきている。本報告書は、2000年1月の紋別シンポジウム、2000年2月のカナダの原油流出時防除対策に関するセミナー、2000年11月の稚内市における市民講座並びに第一管区海上保安本部及び北海道による北海道の流出油防除計画の報告内容である。

このような会議を通して、さまざまな議論が展開されてきた。提起された諸問題が今後さらに検討され、実際の防除作業に生かされることが重要である。忘れ去った頃にやってくる災害に対して、怠りなく準備することは実際にはかなり難しい。しかし、人類の経験が示すように、油流出事故は必ず起きると考えるのが妥当であろう。

本報告書が、地域住民や行政が今後の具体的な防除活動のあり方を検討する上で、参考になれば幸いである。

平成13年3月

研究代表者 村上 隆
北海道大学スラブ研究センター・教授